

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

(86)

私が初めて五葉山を見たのは昭和57年2月のことでした。当時、私は住田町で取り組んでいる林業及び住宅産業に関心を持っており、同町に駆け出しの役場職員(山形県金山町)として視察研修に来ていました。

あれから早いもので30年近い歳月が過ぎています。また、この時の五葉山との出会いは、大学時代からの夢であった「地域づくりに取り組み」という強い思いを実践しようと考え覚悟を決めた年であり、それだけに私の思い出の中に深く刻まれた山でした。

私が地域づくりに取り

組むきっかけになったのは、戦後開拓地の研究をしていた東北学院大学経済学部教授(山形大学名誉教授)の渡辺茂蔵先生(地理学)の影響でした。先生は、開拓地の研究を通じて、何もない荒野を人間がどのように切り開き、自分達の生活をどのように構築していったのかを教えてくださいました。さらに、開拓の奇蹟や強い意思にも言及し、これから地域づくりに必要なことを話してくれました。

平成15年春、住田町と陸前高田市を調査対象とした東北学院大学院農学

研究科の現地調査に随行し、気仙川流域と広田湾を含めた地域における「環境低負荷型社会」の研究に参加しました。久しぶりに訪れた住田町では、森林資源、炭焼きの状況、河川沿いの竹林、

ちにも常日頃から言っていることです。

少なくとも、地域づくりは、公共施設や道路を建設することや何か特別なことをするだけではないと考えています。抽象的な概念になりますが、

組みのか」と問い掛けた時、恐らくその答えは「答える人の数だけある」といってもよいでしょう。

私たちは、どんなに地域が変わろうとも、私たちが生まれ育ったふるさとが、いつまでも豊かでかけがえのない思い出の地として存続し、親から子へ、子から孫へ伝えら

思い出します。ゆったりとした口調で開拓者達の生き方を静かに話し「地域づくりに取り組む」芽を育ててくれた恩師の笑顔は、今でも五葉山とともに忘れることのできない大切な思い出になっています。

金山町役場、林野庁(企画課地域林業対策室)等の勤務を経て、現在、山形大学人文学部(地域連携担当)助教。専攻は「農業経済学」、特に「地域計画学(地域づくり)」が専門分野である。今まで、地域づくりを中心として、具体的な住民運動、各種民間団体の活動、行政等を通じて約30年にわたって地域づくりに取り組んできた。

五葉山に誓う「地域づくり」

山形県山形市在住 村松 真

地域農業等について現地調査を行い、この地域の様々な可能性に触れるとともに、地域づくりとは何かを改めて考えさせられた時間でした。

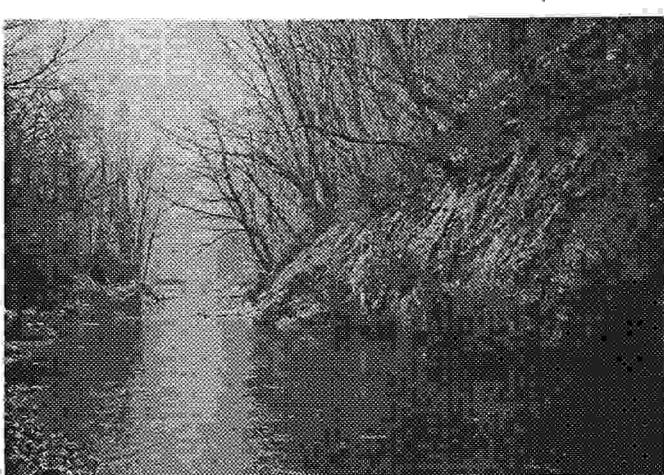
今、農山漁村では、人口減少、少子高齢化に歯止めが掛からず、今回の世界同時不況にともなう国内経済の悪化等により、その衰退ぶりは目に余るものがあります。

私は、五葉山の麓に広がる住田町を訪れるたびに、地域づくりに取り組もうと決意した若き日、学究の道に導いてくれた

「なぜ地域づくりに取り組

今、農山漁村では、人口減少、少子高齢化に歯止めが掛からず、今回の世界同時不況にともなう国内経済の悪化等により、その衰退ぶりは目に余るものがあります。

私は、五葉山の麓に広がる住田町を訪れるたびに、地域づくりに取り組もうと決意した若き日、学究の道に導いてくれた



五葉山を源に流れる気仙川。進むべき道を決意した30年前に訪れた風景は今も変わらず、思い出のなかに息づいている

リレー
エッセイ